

## つくばヒト組織バイオバンクセンター公開文書

管理番号：BBC2022-014	※バイオバンク記入欄
<b>&lt;1. 研究課題名&gt;</b> がん患者由来がん細胞の三次元培養による遺伝子発現安定性の検証	
<b>&lt;2. 研究期間&gt;</b> 倫理審査（または分譲審査）委員会承認後～ 2025年 3月 1日	
<b>&lt;3. 研究対象者&gt;</b> 2022年 12月 1日～2025年 3月 31日に筑波大学附属病院で膵臓癌の手術を行い、つくばヒト組織バイオバンクセンターへ試料・情報を提供することについて同意をした患者さん	
<b>&lt;4. 研究の目的&gt;</b> がんは、発症に関わる遺伝子変異が多数存在します。そのため、がん組織の中の細胞間でも性質が異なることがあります。これを「がんの不均一性」といい、がんの根治を困難にしている大きな要因となっています。個々の患者さんに適した治療法を見つけるためには、患者さんのがんの特徴を保ったまま研究する必要があります。その手法の一つとして、三次元培養法というものがあります。三次元培養法は、がん細胞とがんの周囲にある細胞等を一緒に培養して、立体的に組織を構築していく方法です。本研究では、遺伝子情報などがんの特徴を維持した三次元培養法を確立することを目的としています。	
<b>&lt;5. 研究の方法&gt;</b> 本研究では、福島県立医科大学で樹立作製され、富士フィルム和光純薬株式会社で販売されている膵がん患者由来のオルガノイドという試料と、つくばヒト組織バイオバンクセンターに提供された膵がん患者由来試料を用いて実施します。 まず、コラーゲンなど通常、細胞の周囲にある成分を使って三次元培養をするための土台を作製します。そこに前述の膵がん患者由来の試料を加えて培養し、三次元組織を構築します。構築した組織の形態（組織像）の観察、組織の硬さの検証、遺伝子解析を行い、元の患者組織の情報を維持した最適な方法を決定します。 また、本研究内容は大阪大学の研究倫理審査委員会でも審査され、大阪大学学長より研究実施の許可を受けております。	
<b>&lt;6. 利用する試料・情報の項目&gt;</b> 「診療で採取した組織、血液をつくばヒト組織バイオバンクセンターで保管することについてのお願い」（2016年9月以降）、及び「筑波大学附属病院で診療を受けられる患者さんへ」（2016年9月以前）により同意の得られた患者試料・情報  <input checked="" type="checkbox"/> 組織（対象臓器：膵臓 対象疾患：膵臓癌） <input type="checkbox"/> 血液試料（ ） <input type="checkbox"/> その他試料（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 臨床情報（年齢、性別、診断、感染症の有無、がん種、ステージ、投薬情報）	
<b>&lt;7. 研究機関名及び研究責任者名&gt;</b> 研究代表機関、研究責任者：大阪大学大学院工学研究科 松崎典弥 共同研究機関、研究責任者：がん研究会 藤田直也 凸版印刷株式会社 北野史朗 研究協力機関、研究責任者：筑波大学附属病院つくばヒト組織バイオバンクセンター 西山博之	

**<8. 試料・情報の管理について責任を有する人>**

大阪大学大学院工学研究科 松崎典弥

**<9. 試料・情報の第三者への提供について>**

該当なし

**<10. 本研究への参加を希望されない場合>**

患者さんやご家族（ご遺族）が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

**<11. 問い合わせ連絡先>**

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：つくばヒト組織バイオバンクセンター 担当 竹内朋代

電話・FAX：029-853-3715（土日祝日を除く9～17時）

メール：bank298@hosp.tsukuba.ac.jp